

## (2) 新しい人の流れの創出

## 新しい人の流れの創出

## 定住、観光に魅力ある町づくりをすすめ、本町への新しい人の流れをつくる

自然・文化などの観光資源を有効に活用・PRし、外国人観光客の誘客も視野に入れた取組により集客力を高める。

「来てよかった町」から「住んでみたい町」に、そして「住む町」になることを目標に新規定住者、交流人口の増加を図る。

また、空き家情報や低コスト住宅等の受け入れ態勢を整備し、田舎暮らしを望むアクティブシニアや若いファミリー層などが住みやすい住・労働環境を整え、人口減少に歯止めをかける。

## 数値目標（平成31年度末）

数値目標の項目	基準値	目標値
観光入込客数の増加	51万人 (平成26年度)	60万人
宿泊観光客数の増加	8.6万人 (平成26年度)	12万人
移住者及び新規定住者の増加	69人 (Iターン：24人) (Uターン：45人)	120人

## 基本的な方向性と具体的な施策

## ア) 苗場山麓ジオパーク関連事業の充実

隣接する長野県栄村と連携して進める苗場山麓ジオパークは、平成26年12月に日本ジオパークに認定された。

ジオパークの取組は、地球の成り立ちを観察できる地形や地質、そこに育まれた生態系と歴史文化を体感しながら学ぶことであり、この広範囲に渡る地域資源を観光の目玉として活用を進めていく。

このジオパークを核にして、観光を目的とした人が来訪することにより、人が多数入ってくるような仕組みを検討し、地域経済の振興、地域活動の活性化などプラスアルファの効果を目指す。

## 【具体的な施策】

- ① 苗場山麓ジオパークの情報発信
- ② ジオパークへの観光客の受け入れ態勢の整備、強化
- ③ 滞在メニューの充実

### イ) 地域資源を活用した観光交流の充実

地域資源（地域特有の文化、農村特有の食生活、地域の自然）を活用した観光滞在メニューを作り、国内及び外国からの観光客を呼び込むことを目指す。

観光客の来訪及び滞在を促進させるため、来訪者が地域に長く滞在し、地域の人と交流できるような滞在メニューの開発を進める。

#### 【具体的な施策】

- ①地域資源の国内外への発信
- ②受入態勢の整備
- ③滞在メニューの策定と充実

### ウ) Uターン・Iターン・孫ターンへの補助と態勢づくり

将来の津南町を担う若者を積極的に受け入れることにより、人口減少や高齢化集落の機能低下を防ぎ、集落の存続や人口維持を図る。

また、空き家の調査を継続的に行い、空き家の有効活用、若者向け低コスト住宅の整備を図る。

移住の検討者やUターン希望者への起業や就職活動、農地の借用などの支援を行う。

#### 【具体的な施策】

- ①住環境の整備（空き家の活用）
- ②転入者への支援（Uターン転入者の支援）
- ③移住検討者への生活体験支援整備（お試し住宅と二地域居住者への支援）

### エ) 都市及び外国との交流事業

都市部の人たちが本町のファンになるようなメニューを用意し、町民の協力を得ながら、農村体験やホームステイ等による交流を図る。

また、「津南ならではのもの」を町外に持っていき、「津南を売っていく」ことを進める。

#### 【具体的な施策】

- ①交流事業の企画計画及び支援態勢づくり
- ②都市部との交流、また、学校や外国との交流
- ③アクティブシニアや若いファミリー層等の移住

ア) 苗場山麓ジオパーク関連事業の充実

① 苗場山麓ジオパークの情報発信

事業名	苗場山麓ジオパークの情報発信	
事業の説明	<p>ジオパークの来訪者が一見で終わるのでなく、リピーターとして何度も足を運びたい仕組みを苗場山麓ジオパーク振興協議会の活動を中心に作り、その魅力、関連情報を町内外に発信し、認知度を高める。</p> <p>また、平家の落人伝説が残り、江戸の文人、鈴木牧之が秋山紀行を著したこの地のテーマストーリーを作る。</p>	
事業内容等 (担当課・班)	<p>苗場山麓ジオパーク振興協議会の4部会の活動を基本にして、更にガイド部会を加えて各事業を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 資源探査部会 ジオ散策道の計画と整備を行う。</li> <li>● 商品開発部会 ジオ関連商品の開発 ジオツアーの提案と実施。</li> <li>● 広報部会 地元に向けてジオパークの啓発、ホームページの改定・更新マップ ガイドブック等の作成をする。</li> <li>● 資源保全部会 エリア内の保全域と保全方法の検討をする。 (環境、観光資源の保全)</li> <li>● ガイド部会 ジオパーク内ガイドの充実、育成を図る。</li> <li>● 学術検討委員会 ボーリング調査、地質調査、古道調査、大崩落調査などの調査研究の実施やジオ資産研究助成制度の選考を行う。</li> </ul> <p>(ジオパーク推進室)</p>	
K P I (重要業績評価指標) (平成31年度末)		
数値目標の項目	基準値	K P I
ジオ散策道の整備	—	6か所
ジオ関連商品の開発	6品	10品
ジオ資産研究助成(12件×5年)	—	60件

ア) 苗場山麓ジオパーク関連事業の充実

② ジオパークへの観光客の受け入れ態勢の整備、強化

事業名	ジオパークへの観光客の受け入れ態勢の整備強化	
事業の説明	初めて訪れた人にも地域を分かりやすく、親切に案内、説明する工夫をハード・ソフト両面で図る。	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビューポイントマップの作成、ビューポイントの整備 案内看板の設置を計画的に実施する。</li> <li>● ジオパークガイドを養成するため、ガイド養成講座を開催し、ガイド認定検定を実施する。</li> <li>● 各エリア内の特色を打ち出し、宿泊施設等サービスの差別化を図り、エリア内連泊者を増やす。</li> <li>● 各テーマ(地質、地理 歴史、習俗、農業、等)別のコースメニューを作る。</li> <li>● 苗場山麓ジオパークに登録された日本一の河岸段丘を活用したスポーツ合宿等の誘致を行う。</li> </ul> (ジオパーク推進室)	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
	数値目標の項目	基準値
	総合案内看板の設置	2 か所
	解説看板の設置	2 か所
	ビューポイントの整備	—
	ガイド認定者数	27 人
		7 か所
		12 か所
		5 か所
		40 人

③ 滞在メニューの充実

事業名	滞在メニューの充実	
事業の説明	ジオパーク内をテーマ別にコースを作成し、域内の観光、宿泊施設を利用して、単に見るだけでなく滞在して調べるコースを作る。 栄村、秋山郷観光協会と共同で作成していく。	
事業内容等 (担当課・班)	「地理」「歴史」「地質」「民俗」の各テーマ別コースを作成する。 (ジオパーク推進室)	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
	数値目標の項目	基準値
	4 コース作成する。	—
		4 コース

イ) 地域資源を活用した観光交流の充実

① 地域資源の国内外への発信

事業名	地域資源の国内外への発信	
事業の説明	津南町の特色ある地域資源（雪、水、食、地質、自然、文化など）を再確認し、ホームページやパンフレットなどで幅広く国内外への発信を進めることにより、国内外の観光来訪者を当地域に呼び込み、新たな人の流れを創出する。	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然豊かで、その副産物である雪・米・野菜といった地域資源を積極的に活用・PRし、国内はもとより今後増加が見込まれる外国人観光者に対するインバウンド対策（公衆無線LAN環境の整備等）を図る。</li> <li>・ ホームページ、パンフレット、案内看板等の多言語化情報の整備を進める。</li> <li>・ 「ひまわり広場」「津南まつり」「津南雪まつり」など地域資源を活用した既存イベントを充実させ、さらに新たなイベントに取り組むことにより、観光来訪者の増加を目指す。</li> <li>● 広域連携による観光事業の推進</li> <li>・ 7市町村で組織する「雪国観光圏」において、テーマに基づいたワーキングチームで、「雪」「食」「トレイル」など共通のテーマを研究し、情報共有や連携を図りながら、地域の魅力や資源を発信する。</li> <li>・ 津南町と十日町市で開催する「大地の芸術祭」では、観光来訪者と地域住民の交流を促し、地域の魅力を伝えることで観光来訪者の増加を目指す。</li> <li>・ 津南町と栄村の秋山郷観光関係者で組織する「信越秋山郷会」において、情報共有を図りながら、素朴なおもてなしと新たな観光資源の発掘を目指す。</li> <li>・ 津南町と十日町市と栄村で組織する「奥信越観光協議会」において、連携を図りながら観光宣伝を進め、観光資源を磨き上げる。</li> <li>・ 「飯山線沿線地域活性化協議会」「ほくほく線沿線地域振興連絡協議会」など、各種交通機関を介した連携により、利便性の向上や観光振興を図る。</li> </ul> <p>(地域振興課 商工観光班)</p>	
K P I（重要業績評価指標）（平成31年度末）		
数値目標の項目	基準値	K P I
外国人来訪者の増加	680人	2,000人
観光入込客数の増加	51万人	60万人

イ) 地域資源を活用した観光交流の充実

② 受入態勢の整備

事業名	受入態勢の整備	
事業の説明	外国人来訪者に対するインバウンド対策を進めるため、観光施設のリニューアルや案内看板の多言語化等整備を進めていく。 既存観光施設のリニューアル等を行うことにより、観光来訪者に対する受入態勢の整備を図る。	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 案内看板など、観光来訪者にわかりやすい案内表示を整備し、併せてインバウンド対応の多言語化表示を進める。</li> <li>● 外国人観光者の利便性を向上させるため、小売店における商品の多言語化対応やクレジットカード利用可能店舗、免税店の設置を目指す。</li> <li>● 既存観光施設の中長期的経営計画に基づき、施設のリニューアルや修繕を行い、施設の魅力度をアップさせることにより、更なる観光来訪者を呼び込む。</li> <li>● 散策道、遊歩道などを計画的に改修や整備を実施する。</li> <li>● 宿泊施設や飲食店、みやげ物店等を対象としたインバウンド対策の講演会、講習会を開催する。</li> </ul> (地域振興課 商工観光班)	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
	数値目標の項目	基準値
	外国人観光者に対応したクレジットカード利用可能店舗、免税店の設置	—
		K P I 2 店

③ 滞在メニューの策定と充実

事業名	滞在メニューの策定と充実	
事業の説明	本町を訪れた国内外の観光来訪者が自然や雪や農業など津南の魅力を体験できる滞在メニューを整備し、来訪者が満足し、また訪れたいくなるような態勢を整える。	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域資源をテーマに、年代毎のニーズに基づいた体験メニューを策定する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪」…雪遊び体験、スノーシューを使ったしみわたり体験・動物の足跡さがし体験、除雪体験、鳥追い</li> <li>・「農業」…雪下ににんじん収穫体験、アスパラガス収穫体験、山菜採り体験、稲作体験</li> <li>・「自然」…ハイキング、トレッキング、登山、セラピー基地散策、川遊び、ラフティング、温泉</li> <li>・「文化財」…町指定史跡めぐり、土器づくり体験、アングイン編み体験、わら細工体験、地域の祭り</li> </ul> </li> </ul> (地域振興課 商工観光班/教育委員会 文化財班)	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
	数値目標の項目	基準値
	体験インストラクターの育成	40 人
	体験実習者の増加	3,999 人
		K P I 50 人 4,500 人

ウ) Uターン・Iターン・孫ターンへの補助と態勢づくり

①住環境の整備

事業名	空き家の活用	
事業の説明	<p>津南町への移住促進策として、移住を希望する人に空き家を紹介し、また、リフォームが必要な物件には改修工事の補助をする。</p> <p>更に、子育て世代を対象とした貸家の拡充により移住し易い環境を作り、人口減少に歯止めをかける。また、集落の受入れ状況を把握し、情報を提供する。</p>	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 空き家調査と貸家希望調査及び情報提供</li> <li>● 空き家への移住を希望する者に、住宅改修の補助をする。(100万円以上の工事費に対し、1/3、限度額100万円を補助。子育て世帯は1/2、限度額150万円を補助。)</li> <li>● 空き店舗の利用を希望する者に、改修工事の補助をする。(100万円以上の工事費に対し、1/3、限度額100万円を補助。)</li> </ul> <p>(地域振興課 グリーンツーリズム推進室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援住宅は、不要になった教員住宅を利用して、外丸2、中津2、三箇2、上郷4、津南原2の計12戸あるが、町の中心部にはない。中心部付近の空き家を町が借り、リフォームして子育て支援住宅として貸し出せば、新築するより安いし、空き家の減少にもなる。</li> </ul> <p>(建設課 土木班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住希望者が、農地を利用できるような仕組みをつくる。</li> </ul> <p>(建設課 土木班)</p>	
K P I (重要業績評価指標) (平成31年度末)		
数値目標の項目	基準値	K P I
空き家登録数(賃貸)	7戸	15戸
空き家登録数(売買)	9戸	15戸
町外者に対する住宅改修補助金事業(2戸×5年=10戸)	1戸	10戸
子育て支援住宅の拡充	12戸	15戸

ウ) Uターン・Iターン・孫ターンへの補助と態勢づくり

② 転入者への支援

事業名	Uターン転入者の支援	
事業の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町外に就学就労した津南町出身の若者が、津南町に戻ってくることを奨励するために、奨学金返還免除の制度をつくる。</li> <li>● 起業や就職活動を支援する。</li> </ul>	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 津南町の奨学金を利用した人が津南町に戻ってきたら、津南町に居住する間は、その年の奨学金返還を免除する。 (H26 の新規奨学金貸付者数は 15 人、奨学金返還が新たに始まったのは 7 人で変動がある。7 人のうち津南町居住者は 2 人。)</li> <li>● 企業説明会を実施し、出席者に旅費を補助する。</li> <li>● 中高生に地元企業の仕事内容を紹介することで、地元就職意識を高める。</li> <li>● 職場の情報や仕事の内容を企業やハローワークと連携して情報を出す。 (総務課 企画財政班／教育委員会)</li> </ul>	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
	数値目標の項目	基準値
	津南町出身者のUターン転入者数	24 人
	奨学金利用者の津南定住者数 (3 人×5 年=15 人)	2 人
		K P I
		125 人
		15 人

③ 移住検討者への生活体験支援整備

事業名	お試し住宅と二地域居住者への支援	
事業の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「お試し住宅」は既存の空き家を改修し、冬季のお試しには除雪費を補助する。また、都市部に住居のある者が本町に住所移転することを条件に住む場合(二地域住居者)、交通費の補助を行う。</li> <li>● 「お試し」については知らない人が多いので情報発信が必要であり、生活の基盤となる仕事も併せて紹介する。</li> </ul>	
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お試し住宅の補助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お試し住宅は、空き家を利用する。</li> <li>・ 移住するには、冬の生活を体験してみることが絶対に必要であり、そのために除雪に対して補助を行う。</li> </ul> (地域振興課 グリーンツーリズム室) </li> <li>● 二地域住居者(本町への住所移転が要件)への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二地域の往来に要する交通費(電車・車・飛行機・船等)への補助。ただし、年6回2人分を上限とする。</li> </ul> </li> </ul> <p>※「お試し」については知らない人が多いので情報を発信する必要がある。 (総務課 企画財政班)</p>	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
	数値目標の項目	基準値
	二地域往来交通費の半額補助 (5 世帯×5 年=25 世帯)	—
		K P I
		25 世帯

工) 都市との交流事業

① 交流事業の企画及び支援態勢づくり

事業名	交流事業メニューと支援態勢づくり		
事業の説明	都市部から人の流れが本町に入ることを目的に、「交流事業」の各種メニューを作成し、観光会社や他の観光協会に提供し、流入人口を増やす。また、農家民宿・農家レストランのサービスや品質の魅力アップ支援を行いながら、農業体験ツアーを実施し、観光来訪者の満足度をアップするような受け入れ態勢の充実を図る。これらを専門に担当する部署の設置を検討する。		
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 田舎体験ツアー「おいしいところもつらいところも全部体験して津南を知ってください」ツアーを実施する。 (四季を通じて一緒に対応してくれる農家さんを募る。)</li> <li>・春：田植えと山菜取りツアー</li> <li>・夏：田の草取りと夏野菜の収穫と集落の祭りツアー</li> <li>・秋：稲刈りと紅葉・キノコ取りツアー</li> <li>・冬：雪かき、雪下ろし、鳥追い、温泉ツアー</li> <li>● 農家民宿・農家レストランなどのサービス品質管理を行う。</li> <li>● 交流事業・移住事業を担当する部署の設置を検討する。</li> </ul> (地域振興課 グリーンツーリズム推進室)		
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)			
数値目標の項目		基準値	K P I
田舎体験ツアー実施回数 (ツアー4回×5年=20回)		—	20回

② 都市部との交流、また、学校や外国との交流

事業名	都市部との交流		
事業の説明	これまで行われてきた「都市部との交流事業」をさらに推進していくことが重要。各種の交流を行うことにより「津南」のネームバリューを高め付加価値を付ける。また、新たに、外国との交流にも、より深みを持たせ、友好交流都市韓国ヨジュ市や台湾との交流を足掛かりにして、交流の推進を図ることも考えていく。		
事業内容等 (担当課・班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在行われている団体による(雪や野菜を持っていく等)都市部との交流への補助・援助</li> <li>● 県外の学生の農村体験の受け入れの継続と拡充と一般企業の研修先として位置づけされることを目指す。</li> <li>● 外国との交流が可能になるような態勢づくり(窓口、看板、各宿泊施設の態勢づくり)を進める。</li> </ul> (地域振興課 グリーンツーリズム推進室)		
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)			
数値目標の項目		基準値	K P I
都市部との交流事業の増加		2 団体+行政	4 団体+行政
受け入れの仕方、内容の再考と農業体験受け入れの充実	農業体験実施学校 5 校 (515 人)	農業体験実施学校数 5 校	
	受け入れ農家数 60 件	受け入れ農家数 50 件 農家法人等 2 件	
外国人対応可能な宿泊先数と韓国語、中国語、英語の通訳者の育成		3 施設、2 人	5 施設、5 人

工) 都市との交流事業

③ アクティブシニアや若いファミリー層等の移住

事業名	アクティブシニアと若いファミリー層の移住に向けての施策	
事業の説明	<p>アクティブシニアからの移住を促進し、仕事・社会活動・生涯学習などに積極的に参加し支えになってもらい、地域に溶け込み多世代と交流・共働してもらうことにより、高齢者自身の知識や経験が地元企業を活性化させることが期待できるので、高齢者の移住受け入れ態勢を整備し、活用する態勢も整備する。また若いファミリー層の移住先としての認知にも努めていく。</p>	
事業内容等 (担当課・班)	<p>【受け入れ態勢の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住居の整備                      空き施設となっている保育園、学校をアクティブシニア向けの集合住宅としてリフォームし、身体状況に応じて入居可能な「集合住宅（自立した 60 才以上の高齢者が対象）」と「サービス付き高齢者住宅」を用意する。                      「サービス付き高齢者住宅」とは、60 才以上の高齢者または要介護者・要支援者・要支援者の同居人が入居可能な住宅で、常駐する介護スタッフによる見守りや生活相談が受けられる施設のこと。                      (建設課 土木班／福祉保健課 保険班／教育委員会 生涯学習班)</li> <li>・ 有償ボランティア先の準備                      農家等でのボランティア先を準備し、希望者を受け入れる。また、その経験を活かした講師などへの登用も考え、人材バンクに登録する。                      あわせてシルバー人材にも登録する。                      (福祉保健課 保険班／教育委員会 生涯学習班)</li> <li>・ 若いファミリー層向けの住居を用意し、夏休み等にお試しに生活してもらうような企画を実施する。                      (地域振興課 グリーンツーリズム室)</li> </ul>	
K P I (重要業績評価指標) (平成 31 年度末)		
数値目標の項目	基準値	K P I
アクティブシニアの移住者としての受け入れ	—	5 人
有償ボランティアとして活動の場への参加	—	5 人
若いファミリー層の移住の受け入れ	—	3 世帯